

横浜市におけるニホンアナグマの記録

桑原 康裕・後藤 好正

Yasuhiro KUWAHARA and Yoshimasa GOTO: Distributional Record of
a Japanese Badger at Yokohama City, Kanagawa Prefecture

ニホンアナグマ *Meles meles anakuma* TEMMINCK
はイタチ科に属し、本州・四国・九州の低地部から亜
高山帯までの森林に生息する。本来は人里近くに普通
に見られる中型哺乳類であるが、横浜市では最近その
姿を見ることができなくなった。

横浜市野毛山動物園の堀氏によると、同園には1951
年開園以来、横浜市産と考えられる本種が数回寄贈さ
れたが、1971年に寄贈された個体を最後に、以後の記
録はないということである。また、筆者の一人、桑原
は1970年中頃まで横浜市北部の緑区で本種の生息を確
認している。したがって本種は1970年代に市内より急
速に姿を消していったのではないかと思われる。

筆者らは最近、横浜市産のニホンアナグマの剥製を
見る機会を得たので、やや古い記録ではあるがこの場
を借りて報告する。

本文に先立ち、筆者らに記録の発表を委ねられたこ
どもの国協会の中山康夫氏、発見の経緯についてお教
えいただいた雪印こどもの国牧場の山崎かつえ氏、横
浜市立野毛山動物園の記録についてご教示いただいた

堀浩氏、川崎市のアナグマについてご教示いただいた
和光高校の斎藤 博氏ならびに発表の機会を与えてい
ただいた神奈川県立博物館の中村一恵氏にお礼申し上
げる。

横浜市緑区こどもの国における記録

横浜市緑区奈良町こどもの国で1978年5月11日に山
崎かつえ氏により同園内にある雪印こどもの国牧場近
くの草地でうずくまっているところを保護されたもの
である。保護されたときに、喉の辺りを怪我していた
ので、すぐに獣医の手当てを受けたが間もなく死亡し
た。この個体は成獣で性別については記録されておら
ず不明である。当時から同園内ではしばしば野犬が見
られたことから、この怪我はおそらく野犬に襲われた
ためだと思われる。死亡後は山崎氏が引き取り剥製に
して保管していたが、最近、こどもの国協会に移され
現在は同協会が保存している(図2)。

横浜市こどもの国周辺の現況

こどもの国は多摩丘陵の南端に位置し、横浜では急
速に姿を消しつつある人里の自然がまだ比較的良好に
残されている地域である。周辺は、雑木林が多く残さ
れており、中型哺乳類としては、ホンダタスキ、ホン
ドイタチ、キュウシュウノウサギが少なくなりつつあ
るがまだ生息している(桑原、未発表)。

こどもの国周辺では、1980年頃川崎市麻布区柿生
の麻布川河川敷に餌づけされた本種が生息していたと
いう(斎藤博氏私言)。また、山本(1987)は同区での、
山口(1987)は横浜市緑区寺家町での聞き込みによる
本種の生息を報告している。したがって、こどもの国
およびその周辺(緑区奈良町、寺家町、川崎市麻布区
早野、町田市三輪町)にまたがった緑地帯には現在で
もニホンアナグマが生息している可能性はありえる。

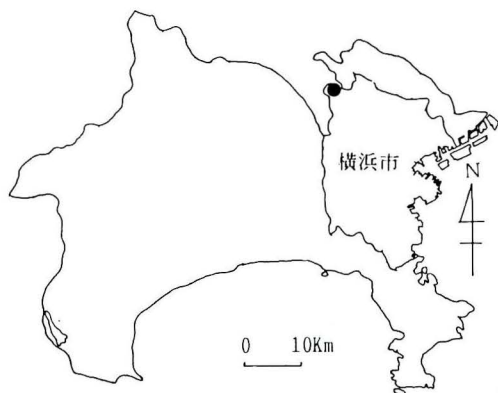


図1. ニホンアナグマの発見地点(●)



図2. 横浜市こどもの国で保護されたニホンアナグマ（剥製）

ただし、こどもの国には野犬が多く、常に襲われる危険性があるだけでなく、同地域は鳥獣保護区に指定されているにもかかわらず、中型哺乳類を対象とした罠が多数仕掛けられるなど、ニホンアナグマにとって決して良好な生息環境であるとはいえない。したがって、こどもの国周辺に本種が生息しているとしてもその個体数は極めて少ないのではないだろうか（こどもの国ではその後の記録がない）。さらに、最近この地域も開発が進んで緑地が分断される傾向にあり、中型哺乳類の生息にとってますます厳しい状況になることが予想される。

近年、ホンドギツネが神奈川県北部や県央地区で増加しながら分布を拡大する傾向があるとされるが（柴田，1991），現在のところニホンアナグマではこうした傾向は見られない。しかし最近、横浜市で記録が

途絶えていたホンドギツネが確認された例もあり（後藤・桑原，1991），ニホンアナグマの生息が再び確認されることを期待したい。

文 献

- 後藤好正・桑原康裕，1991. 横浜市のホンドギツネについて. 神奈川自然保全研究会報告書，(10): 35-37.
- 柴田敏隆，1991. 横浜市の生物相・生態系(哺乳類). 横浜市陸域の生物相・生態系調査報告書，pp. 137-152. 横浜市公害対策局.
- 山口佳秀，1987. 寺家町の哺乳類. 寺家の自然，pp. 145. 横浜ふるさと村自然と文化の会.
- 山本祐治，1987. 川崎市の哺乳類. 川崎市青少年科学館，(4): 55-58.

（神奈川自然保全研究会）